

ければと思ひ、管理者である横須賀市公園管理課に相談した。担当者は台風被害

お見舞い申し上げます。
(森重 竜一)

神奈川県行政書士会横須賀・三浦支部(山口義則支部長) 046(847) 12700のメンバーが暮らしに関わる手続きなどについて伝えます。コスモスはバッジのデザイン、ネコは日本行政書士会連合会の公式キャラクター「ユキマサくん」です。

燃処理

干度めど

ンター跡地を候補地として25年度以降に可燃ごみを積み替える中継施設を整備。葉山町も町クリーンセンター(同町堀内)に同様の施設を整え、24年度の稼働を目指す。

可燃ごみを減らすため、生ごみの資源化施設を2カ所整備。鎌倉市は28年度までに、葉山町は逗子市分も受け入れる施設を24年度の稼働を目標に建設する。

3市町の可燃ごみを受け入れる予定の逗子市の環境クリーンセンターは稼働から38年が経過、老朽化が進んでいる。計画素案では34年度をめどに稼働を停止させ、その後は新たな焼却施設は建設せずに区域外で処理する方針を盛り込んだ。その理由として、ごみ減量資源化を進めるなどすれば29年度には3市町で約2万7千トンの排出量を削減できると試算する一方、エネルギー再活用の観点から新施設を建設するには年間約2万7千トンの規模の焼却量が必要になるなど、非効率性を挙げた。

稼働停止後は、他自治体との連携の可能性も視野に入れ、民間の資源化技術を活用するなどして区域外で

処理する考え。鎌倉と逗子

2市の可燃ごみは鎌倉の中継施設から運搬。葉山分の可燃ごみの運搬方法や、3市町の粗大ごみ、不燃ごみ

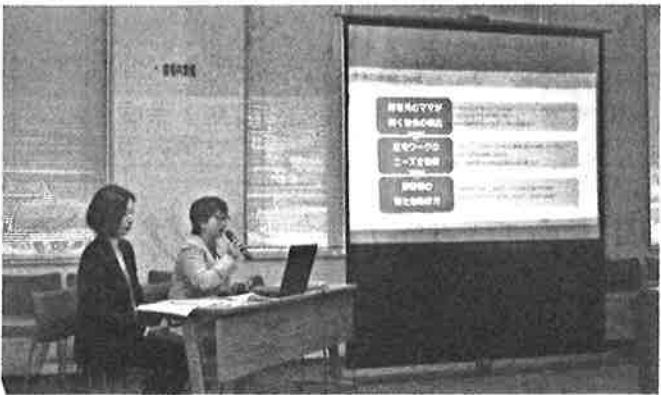
の処理方針は今後、検討していくとしている。

3市町は16年7月、ごみ処理広域化の覚書を締結。逗子と葉山のみ、可燃ごみや、し尿・浄化槽汚泥の広



承認し、「私たちが未来を変える、安心社会に向けて」とするスローガンと総会宣言を採択した。

障害児の母 在宅で仕事 業務確保へ企業向け説明会



障害児の母親らが取り組むテレワーク事業について説明する五本木代表理事(右) —横須賀商工会議所

横須賀 障害のある子の保護者ら

を対象に、テレワークを活用した就労支援を進めている横須賀商工会議所(横須賀市平成町)と一般社団法人「sukasukaipro」(同市久里浜)が28日、これまでの取り組みを地元事業者などに紹介する説明会を商議所で開催した。

商議所と、障害児を持つ母親らでつくる同法人は、2017年11月、「よこすかテレワーク」と題した事業を協働でスタート。育児などに追われ、なかなか働けない市内の障害児の保護者向けに、在宅などでの柔軟な働き方を提供してい

る。

これまで依頼を受けて手掛けた業務は、インターネット販売のシステム構築や受注管理など160以上。今年4月からは市の委託を受け、対象を市内のひとり親などにも拡大した。今月28日時点で、女性48人が登録しているという。

説明会は、新たな業務の委託元に結び付けることなどが狙いで、商議所の呼び掛けに応じた市内企業17社が参加した。同法人の担当者らが取り組み事例を披露したほか、実際に業務を依頼している企業3社も登壇して実績を紹介。その後、参加者同士で軽食を片手にしながら交流を深めた。

域処理を始めている。素案について各市町は12月に住民説明会を開き、来年1月にパブリックコメントを実施。計画の早期策定を目指すとしている。

説明会は、登録して間もない保護者や登録希望者にも事業を知ってもらう目的も兼ねており、約2週間前に登録したコロナピア出身で同市在住のドウアルテ・ミッシェルさん(47)も出席。持病のある中学2年の次女の通院に付き添うため、「家族の時間を確保しつつ空き時間を活用して働きたい」と語った。

事業では今後、保護者だけでなく、障害者本人のテレワークの実現にもつなげたいとしている。同法人の五本木代表理事は「意欲ある保護者が数多くいることを地域に知ってもらい、こうした働き方が横須賀に根付いてくれれば」と期待している。

(堤 正喜)

精神障害者支援 法人あす感謝祭

三浦 精神障害者の就労支援や生活

支援に取り組むNPO法人「ぴあ三浦」が30日、運営するカフェ「BLUE S EAS」(三浦市南浦町上宮田)で、利用者や地域住民らへの感謝祭を催す。同法人によると、2003年にオープンした同カフ

車にはねられ 89歳男性死亡

横須賀の生

28日午前5時5分、横須賀市東逸見町2丁目道で、近くの塗装工文一さん(89)が軽乗用車にねられた。平田さんを強く打ち、搬送先で死亡が確認された。横須賀署は自動車運罰法違反(過失傷害)

エでは20~50代の障害者就労しており、マグロなんだメニューなど供。別の拠点で行う支援では、外出を促す太極拳や体操、歴史研といった気軽に集まれるを設け、利用者が互いを助け、利用者が互いを助けるなどしている。感謝祭では、こうした活動に参加する利用職員が運営を担い、の模範店が出店。同カの特製カレーライスやろカツバーガー(限定)をはじめとした食事やみ物を提供する。市民によるギター演奏のミニコンサートなどもある。同法人の杉山実理事「利用者や家族、地域が交流を深める場になる障害者や支え手の連携に進めば」と来場を掛けている。午前11時~午後2時 合わせは、実行委員

バザール

逗子

人権作文表彰式&映画「教誨(きょうかい)